

## 会議録

1 附属機関の名称

犬山市公益的活動促進委員会

2 開催日時

令和6年7月3日（水）午後6時30分から午後8時30分まで

3 開催場所

犬山市役所 205会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 佐藤正之、水内智英、山本剛毅、遠山涼子、林加奈、松元永己、谷口功
- (2) 執行機関 中村地域協働課長、日比野課長補佐、佐藤統括主査、柴田主事、水野主事補
- (3) オブザーバー 協働プラザ 森好佐和子

5 内容

○議題

- (1) 令和6年度犬山市公益的活動促進委員会の議事予定について
- (2) 令和5年度市民活動助成金の実績報告について
- (3) 令和6年度市民活動助成金の交付決定状況について
- (4) 令和5年度協働プラザ事業報告について
- (5) 令和6年度協働プラザ事業計画について

6 傍聴人

0人

7 内容

① あいさつ（中村課長）

② 委員委嘱

※ 委員総数7名全員が出席し、犬山市公益的活動の支援及び市民参加に関する条例施行規則第6条第2項の規定により、会議が成立。

③ 委員自己紹介

④ 委員長選任

遠山委員から、佐藤委員を委員長にする提案あり。賛成多数で佐藤委員を選任。

佐藤委員長から、同条例施行規則第5条第3項の規定に基づき、委員長の職務を代理する委員として、山本委員を指名。

⑤ 議事

- (1) 令和6年度犬山市公益的活動促進委員会の議事予定について  
事務局より配布資料に基づき、説明。

資料1

〈質疑応答〉特になし

- (2) 令和5年度市民活動助成金の実績報告について  
事務局より配布資料に基づき、説明。

資料2・3

〈質疑応答〉特になし

- (3) 令和6年度市民活動助成金の交付決定状況について  
事務局より配布資料に基づき、説明。

資料4～6

- (4) 令和5年度協働プラザ事業報告について  
事務局より配布資料に基づき、説明。

資料7

〈質疑応答〉

- ・委員：新規の方とのつながりや、人材育成をしているのは良い。各事業の掛け算があるともっと良いと思うが、そういう例があれば教えていただきたい。
- ・協働プラザ：地域活動の担い手育成事業で生まれた15人のコミュニティナースには、地域資源バンクへの登録を促したり、市民活動団体や町内会、コミュニティにも関わられるよう伴走している。コミュニティナースを地域の担い手として地域の方に繋ぐことを意識している。  
いぬやまでばんに登録した人も、地域との関わりという目線を持ってもらうことで活躍の場を広げていき、他の事業との関わりを持ってほしいと考えている。
- ・委員：金曜日の夜間利用は、どのくらいあるのか。
- ・協働プラザ：金曜日は19時までで開館している。元々ニーズがあったが、相談としては1～2件で、印刷業務で来る方々に金曜日の夜間利用の周知をしている。毎週定期的に人が来るわけではなく、交流スペースを使っている人に声をかけてもらうこともある。周知が足りていなかった反省があるので、利用促進は今年度の課題としている。
- ・委員：相談・助言業務は、市民だけではなく行政からの相談もあったのか。
- ・協働プラザ：地域協働課以外の課からも相談がある。
- ・委員：市民だけでなく、行政に対してもその役割が担えると、市民参加を進めていく強力なエンジンになる。具体的にどのような相談が来たか教えてほしい。
- ・協働プラザ：子ども未来課からは、チラシ制作とSNSの広報活動について相談が来ている。X(旧Twitter)のアカウント作成、運営の仕方をアドバイスした。  
市民課からは、LGBTQの講演活動に関する相談があり、市民活動団体である

「Ocolor」を紹介した。

今年度は観光課から、ロングラン花火のポスターに関する相談があり、地域資源バンクに登録のあるデザイナーを紹介した。

- ・委員：人材育成に力を入れた年だと感じた。事業を実施する中で見えた地域の課題はあったか。
- ・協働プラザ：全体を通して、高齢化は避けられない。高齢の方から、チラシ作成、SNSのやり方が分からないとの相談があり、教えることのできる若い方との出会いがあった。  
他にも、コロナ禍で中止となった地域のイベントの再開に関する相談が増えている。地域とどううまくやっていくかという相談もあるが、外部組織になるので、うまく進めていきたい。
- ・委員：コロナによって本来の活動ができていないと思うが、地域によって、課題はそれぞれなので、そのあたりの課題の把握をお願いしたい。相談業務の中で、課題をもう少し深掘りすると、発信ができないのか、継続ができないのかなどを意識することで繋げやすくなるのではないかと思う。
- ・委員：相談件数とマッチング件数は、マッチングするまでに相談を複数回受けているように感じるが、相談とマッチングはそれぞれでカウントされているか。
- ・協働プラザ：相談とマッチングが1件ずつである。マッチングは、地域資源バンク登録者を紹介した場合はマッチングとしてカウントできる。それ以外は、コーディネートとして、相談としている。

(5) 令和6年度協働プラザ事業計画について  
協働プラザより配布資料に基づき、説明。

資料8

〈質疑応答〉

- ・委員：犬山総合高校がチェンジメーカーを育成すると聞き、その風景を見に行ったら記者からは、先生が熱心で良かったと聞いた。既に協働プラザと連携できているので、続けてほしい。
- ・協働プラザ：先生も比較的若く、助成金をとってくるなど熱量の高い方々と仕事ができている。
- ・委員：それを市民団体や地域で困っているところに繋げていけると良い。
- ・委員：学校との連携について、資料のどの部分と対応しているのか。
- ・協働プラザ：この書類上には反映されていない。
- ・委員：高校の探求学習にあたると思うが、どのような助成金を活用したのか。
- ・委員：文科省が実施しているDX関連の助成金である。
- ・委員：市民活動助成金ではないということは、未成年の団体登録の延長ではないという認識でよいのか。
- ・協働プラザ：その認識で間違いない。
- ・委員：協働プラザは、伴走支援として毎週犬山総合高校に行っているのか。
- ・協働プラザ：毎週ではないが、ピンポイントで高校へ行き、生徒に話している。

- ・委員：事業の掛け算の話があったが、まさに実践されている例である。今までの経験と実績が反映されていて素晴らしい。  
地域と学校の関係は大きく変わろうとしているので、独自の例として整理して使ってほしい。

⑥ その他

- ・令和6年度「町内会の『みらい』ミーティング」の開催について
- ・市民交流センターの貸しオフィスについて
- ・委員の報酬・旅費について